



Title : 図書館の外はヤブ?

いよいよ大館市立中央図書館の増設工事が始まりました。さっそく駐車場が狭くなっています。工事車両も通りますので、駐車の際はなるべく線からはみ出さないようにご協力をお願いします。それから、満車の際は文化会館（と中央公民館）や市役所の駐車場をご利用ください。また、自転車は正面の駐輪場に置いてくださるよう、くれぐれもお願いします。

❖ヤブガラシのこと

つい先日、中央図書館の敷地内の雑草を抜いていると、通りかかった年配の女性二人が駐車場の外灯のところで、「きれいにしているよねえ」と言い交わしているのが耳に入りうれしく思いました。ほかにもいろいろ図書館の環境整備に努めているSさんの努力の賜物です。

そんな姿にこちらとしても時には雑草取りくらいしなければと思うわけです。以前よりまめにやっていると、小さくても意外に可憐な花をつけるものもあり、案外面白くなってきます。今とくに気になっているのは厄介者のヤブガラシです。

「雑草という草はない。どの草にも名前はあるのです」とは昭和天皇の名言ですが、ヤブガラシ、別名ビンボウカズラ、どちらにしてもすごい名前ですね。それだけ嫌がられている、ということは生命力旺盛だということでしょう。つる植物で、地面を這い、ほかの植物につるがまきついて立ち上がる。いや、立ってないか。ものによっては随分遠くから這ってきており、びっくりします。根が残るとまたすぐ生えてくるので、根ごと抜こうとするのですが、なかなかうまくいきません。大きめのものだと根も長くて、何箇所も茎が生えたりもして。鳥の足の形に5枚に分かれた葉（小葉）が特徴。毎日のように抜いているのに、毎日でも見つかるのが謎です。毎日つきあっているとその生きる力の逞しさに、ヤブガラシも憎からず思えてきます。ストックホルム症候群みたいなことでしょうか。

雑草について市立図書館のOPACで検索すると（ひらがなの「ざっそう」で検索してみてください）、39件の図書がヒットします。分類記号でいうと470（植物学）がメインですが、数字が6から始まる6類（産業）も多く、610番台の農業、620番台の園芸にも複数あります。それだけでなく、3類（社会）や5類（技術）、7類（芸術）、9類（文学）まで、まさに雑草のごとくはびこっています。中には、雑草軍団と言われた金足農業野球部嶋崎元監督の本もありますが。とにかく図鑑から料理法まで、いろいろ取り揃えています。おもしろいなあ、図書館。

❖須賀敦子の筆跡

6月に中央図書館に入った『須賀敦子の手紙』（つるとはな、2016年、910・2/ス）を借りました。『ミラノ霧の風景』（白水社、1990年）などの名エッセイで知られるイタリア文学者須賀敦子が、アメリカの友人に出した55通の手紙が載せられています。イタリアから帰国してからやがて病を得るまでの間、本音で不平不満も書き付け、もちろん喜びも随所にみえる手紙の数々に、時に静謐な筆致というべき数々のエッセイとは違った面も垣間見えて興味深い一冊となっています。

手紙やハガキはすべて書き文字が読めるように載せられており（活字でも載っています）、カラー印刷のためいろいろな紙の手触りさえ感じられる贅沢なつくりです。紙だけではなく、手書きの文字が「書（文字）は人なり」を実感させてくれるすばらしい本。

値が張るので購入を迷っているうちに中央図書館で購入してくれていました。ありがたいことです。ぜひ手に取ってみてください。平成26年に神奈川近代文学館で開催された「須賀敦子の世界展」の図録をたまたま持っているのですが、また読み直そうと探していますがまだ出てきません。見つかったら図書館に寄贈したいと思います。2冊セットで楽しめるはずなので。

読書感想文コンクールの締切りは、9月14日（水）に迫っています。応募をお待ちしております。

「秋のぬいぐるみのおとまり会」の応募締切りは22日（木）です。前回の好評から応募が殺到するかと思っていたのですが、それほどでもありません。学校の休み明けとかまつりや何やかやで、時期が悪かったのでしょうか？とにかく、まだ間に合います。こちらも待ってます。一応小学生までが対象ですが、大人でも関心のある方がいらしたら、とりあえず中央図書館にお問合せください。電話0186（42）2525です。（陽）